

— 万葉茶会と講演 —

『香を楽しむ』

坂出市にある沙弥島は、狭岑の島と万葉集に歌われており、その長歌一首反歌二首は柿本人麻呂が詠んでおり、万葉歌碑を有しております。市民煎茶グループ曙会は、瀬戸大橋開通の33年前から、万葉茶会を毎年開催し、今年で35回目を迎えます。常には新茶の季節5月に開催し、市民と共に歌を詠み楽しんできましたが、コロナ禍の中、去年は8月23日となりました。

2013年には文化勲章受章者中西進氏の講演『万葉集講演とその茶会』、2016年には冷泉貴美子氏による『万葉茶会～冷泉家の和歌と文化～』、2019年には池坊保子氏（元文部科学省副大臣）による講演『万葉茶会とその講演～華～』が、イベントとして瀬戸内国際芸術祭に採択されました。今回は『香を楽しむ』と題して、御家流御宗家をお迎えし、万葉茶会と講演をさせていただきます。

茶・華・香は、寄り合いの芸能と呼ばれております。『寄り合い』とは、コミュニケーションの場であり、万葉というその中に歌われた島の文化と人々の交流を基とした場を設けたいと思うのです。

さらにその事を深く感じ、考えるために『講演と茶会』を開催し、来場する方々に深く万葉の島の存在を知っていただければと考えております。

【 講師紹介 】

御家流香道二十三世宗家 三條西堯水 (さんじょうにし きょうすい)

仏に供えるものとして、奈良時代シルクロードを経て伝来した香木。平安時代貴族は、香を演出し、宮中の祭祀にも用いられた。その後、室町時代には、華道・茶道に並ぶ芸事として香道が整えられた。香道の祖といわれる三條西実隆の子孫、御家流香道二十三世、三條西堯水氏は文芸とゲームの要素をあわせもつ香道の和やかな楽しみを国内外の幅広い世代の人々に伝えている。



1962年生まれ。御家流二十二世宗家三條西堯雲を父とする。少年時代より父と祖父（二十一世宗家）堯山より香道の手ほどきを受ける。1985年立教大学法学部卒業後、1997年父の逝去により二十三世を継承。弟子の指導のほか、2008年大河ドラマ「篤姫」で香道を指導するなど、様々な形で香道の普及につとめる。龍谷大学客員教授、学習院大学非常勤講師を務める。全国の御家流香道の会の指導など多忙である。

父、三條西堯雲は、上皇陛下お従兄弟。